

今月のトピックス

- 1 麻しんの報告が続いています。
- 1 伝染性紅斑の報告が増加しています。

全数把握の対象

【4 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	2 件	後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)	2 件
マラリア	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	1 件
アメーバ赤痢	3 件	梅毒	3 件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件	麻しん	2 件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: 2 件(いずれも O157 VT1VT2)の報告がありました。1 件は広域に発生している同じ畜産会社の馬刺しの喫食が原因でした。もう 1 件は感染経路等調査中です。本症は例年夏季にむけて感染者数のピークを迎えるため、今後の注意が必要です。特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者で重症化することがあります。通常、菌は家畜の腸内に存在し、新鮮な肉を購入しても表面に菌が付着している可能性があり、生肉を切った包丁やまな板の洗浄・消毒や、焼肉の生肉を取る箸と食べる箸を区別する等の予防対策が重要です。また菌は熱に弱いので、肉は十分に加熱(中心部まで 75 で 1 分間以上加熱)し、生肉や加熱が不十分な肉を食べないことが大切です。
- 2 マラリア: 1 件の卵形マラリアの報告があり、渡航先(ガーナ)での感染が推定されています。マラリアは、熱帯熱、三日熱、卵形、四日熱の 4 種類に分かれます。マラリアに免疫のないヒトが初感染した場合、発熱はほぼ必発で、原虫侵入後の潜伏期は熱帯熱マラリアで 12 日前後、四日熱マラリアは 30 日前後、三日熱マラリアと卵形マラリアでは 14 日前後です。
- 3 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 2 件と腸管外アメーバ症(肝膿瘍)1 件の報告がありました。腸管アメーバ症の 1 件は国内での同性間性的接触による感染、他の 2 件は国内での感染が推定されていますが感染経路等不明でした。
- 4 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 70 歳代男性の報告が 1 件あり、血清型は G 群でした。創傷感染が推定されています。
- 5 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者 2 件(無症候性キャリア 1 件とその他(急性 HIV 感染症)1 件)の報告がありました。無症候性キャリアは国内での同性間性的接触による感染、その他は国内での感染が推定されていますが、感染経路等不明でした。なお、HIV 感染症の初期症状である発熱、頭痛、咽頭痛などを呈する急性 HIV 感染症は、感染症法による届出のうち、1)無症候性キャリア、2)AIDS、3)その他、のうち 3)その他、に該当します。
- 6 侵襲性肺炎球菌感染症: 70 歳代の報告が 1 件(血清型 7 型)ありました。ワクチン接種歴は 2 回有りました。血清型のサブタイプは現在国立感染症研究所で精査中です。
- 7 梅毒: 3 件の報告があり、1 件は早期顕症 期(咽頭乳白斑)で、国内での異性間性的接触(経口)による感染が推定されており、残る 2 件は早期顕症 期(初期硬結、鼠径部リンパ節腫脹)で、どちらも国内での異性間性的接触(1 件は経口、もう 1 件は性交)による感染が推定されています。
- 8 麻しん: 2 件の報告がありました。1 件は幼児で予防接種歴無し。PCR 陽性で、遺伝子型は B3 です。もう 1 件は 50 歳代男性で予防接種歴不明で臨床診断例です。現在 PCR 検査等精査中です。全国的に麻しんの報告が増加しており、既に今年も昨年の報告数を超えています。現在フィリピンなどでは麻しんが流行しており、海外からの輸入例が、特に首都圏で増えています。海外渡航歴や海外の人との接触が考えられる患者の診察では留意が必要です。さらに、国内発生の事例では、本人の気づかないところで海外からの輸入例と接触し、感染したことが疑われる事例が報告されているので注意が必要です。また、職場内での感染も報告されています(参考: [麻しん臨時情報](#))。麻しんの予防には 2 回の予防接種が必要です。定期予防接種(1 回目: 1 歳以上 2 歳未満、2 回目: 5 歳から 7 歳未満で小学校就学前 1 年間で、麻しん・風しん混合ワクチン(MR ワクチン)を確実に接種しましょう。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「[麻しん検査診断アルゴリズム](#)」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期の PCR 検査が有用です。検査については

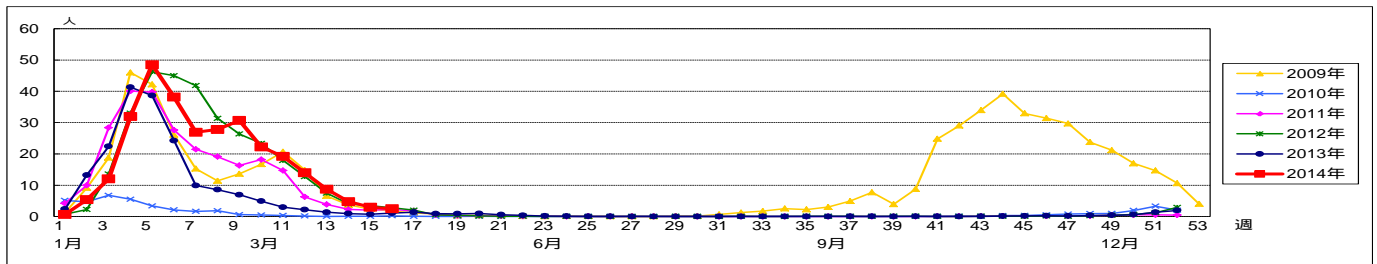
最寄りの福祉保健センターにご連絡ください。

平成 26 年 週 - 月日対照表

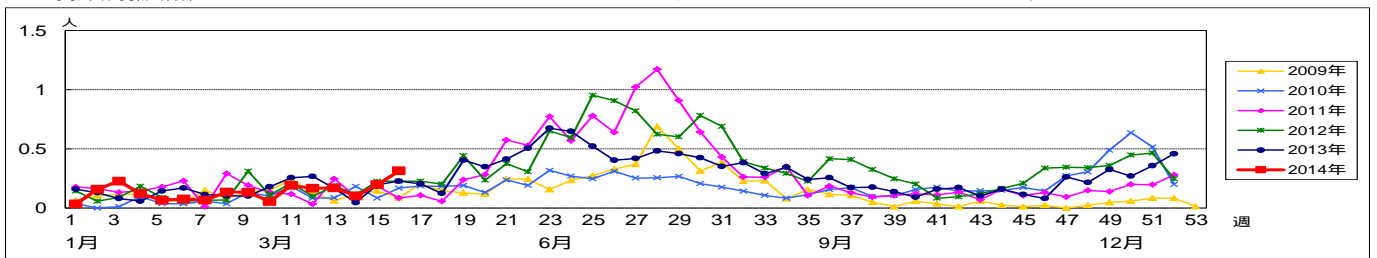
第 13 週	3 月 24 日 ~ 3 月 30 日
第 14 週	3 月 31 日 ~ 4 月 6 日
第 15 週	4 月 7 日 ~ 13 日
第 16 週	4 月 14 日 ~ 20 日

定点把握の対象

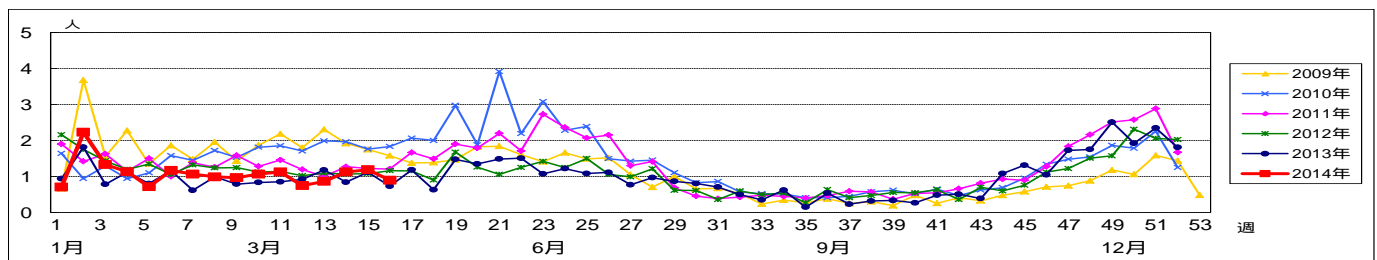
- 1 **インフルエンザ**: 市全体の定点あたりの患者報告数は引き続き減少傾向で、第 16 週は 2.46 です。ただ、第 16 週にも小学校での学級閉鎖が 1 件報告されており、もう少し注意が必要です。



- 2 **咽頭結膜熱**: 第 16 週は市全体で定点あたり 0.31 と、やや報告が増加しています。

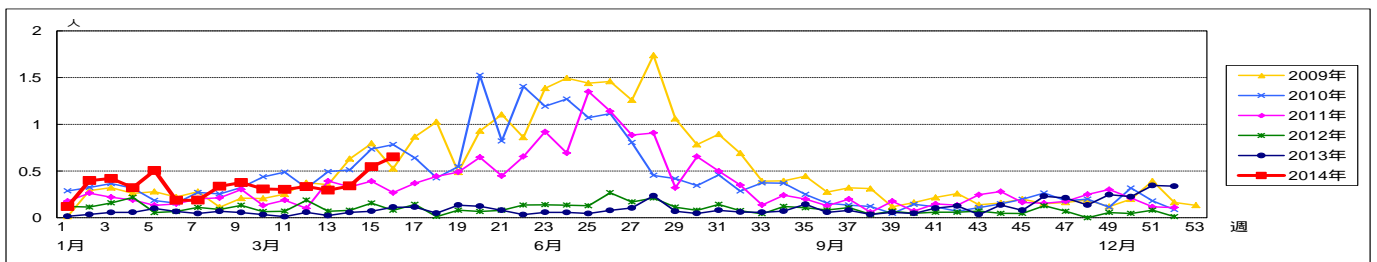


- 3 **水痘**: 第 16 週は中区で定点あたり 5.33 と注意報レベルですが、市全体では 0.90 と落ち着いています。



- 4 **伝染性紅斑**: 第 16 週は市全体で定点あたり 0.65 と、報告数が多くなっています。伝染性紅斑は典型的なヒトパルボウイルス B19(以下 B19) 感染症の臨床像です。B19 感染症で注意すべきものの一つとして、妊婦感染による胎児の異常 (胎児水腫) および流産があります。

[伝染性紅斑について](#) (国立感染症研究所)



- 5 **性感染症**: 3 月は、性器クラミジア感染症は男性が 23 件、女性が 7 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 6 件、女性が 6 件です。尖圭コンジローマは男性 9 件、女性が 3 件でした。淋菌感染症は男性が 10 件、女性が 1 件でした。
- 6 **基幹定点週報**: マイコプラズマ肺炎は第 13 週 0.50、第 14 週 0.33、第 15 週 0.00、第 16 週 0.00 と落ち着いています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第 13 週 0.25、第 14 週 0.00、第 15 週 0.33、第 16 週 1.50 と報告が多くなっています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 7 **基幹定点月報**: 3 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 1 件報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>